

環境にやさしい工夫：自然換気



空気は温度の差があると風となって動きます。人工の力を加えず自然に風がとおるように窓の高さを工夫し、温度差によって自然に風が流れるようにしました。

機械で空気を動かすには電気を使いますが、自然の風を利用することにより、使用する電気を減らします。

又、自然の風は人々をいやします。

もどる

浴室上層(空気排出)



浴室下層(空気取入れ)

環境にやさしい工夫：アースチューブ(地中熱利用空調)



気温が季節によって変化するのに比べ、土の中の温度は、ほぼ一年中一定で変わらないため、この土のトンネルを通った空気で自然の恩恵として、部屋を夏は涼しく、冬は暖かくします。

もどる

この中をとおって

ここから出てくるのか。

環境にやさしい工夫：自然採光



太陽の光ができるだけ建物の中にとり込むように工夫しました。

あらゆる自然の光は、やわらかく暖かく人々と場所を包み、いやします。

また、それは人工照明のため必要となる電気を減らし、それは地球温暖化の原因となる二酸化炭素排出量の減少となります。

もどる



メインホール上層(採光側)

環境にやさしい工夫：地形を生かした建築計画



もとの地形を生かした建物の形や配置計画を行いました。3階建ての部分と、2階建ての部分があったり、南側の浴室が少し下がっているのはそのためです。

できるだけ周囲の自然に対してなじむような形になるようにしています。

だから、『四万十の森』の南側の株も半フロア下がっています。

もどる

環境にやさしい工夫：断熱



建物の外壁は、外からの雨や風をしのぐと共に、熱の伝わりを防ぐ役目もしています。

外壁にしっかり断熱をすることで、この熱の伝わり方を小さくすることができます。つまり夏は外のあつい熱を入りにくく、冬は室内のあたたかい熱を逃がしにくくします。

これにより、室内を冷房、暖房するエネルギーを少なくすることができます。

もどる

環境にやさしい工夫：気の流れを導く建物配置



東洋医学の考えかたにそって、この地にあるエネルギーを取り入れることを考えました。山の峰からつた「気」のエネルギーを建物の内部に導くように、気の流れに逆らわないような建物配置としています。

この施設でみなさんに「気の再生」をしてもらいたいと願っています。



もどる